

C：一般（12作品）

NO	ビデオ・DVD名	映像時間 購入時期	対象	内容・解説
C-12	一瞬の過ち 失われた未来 女子大学生 ある自転車死亡事 故より ※DVDのみ	21分 2020年3月	一般	前方不注視、信号無視、一時不停止…こうした交通ルール違反や無謀な運転による痛ましい自転車事故が後を絶ちません。「いつも大丈夫だから」「自転車で人が死ぬわけがない」という思い込みが事故につながります。この作品ではドラマを通して、事故の悲惨さと自転車も乗り方を誤れば凶器となり得ることを強く訴えます。
C-11	自転車の交通安全ガイド ※DVDのみ	18分 2017年3月	一般	自転車は子どもから高齢者まで利用出来る、とても便利な乗り物です。その反面、街中では、「一時停止違反」「信号無視」「歩道での乱暴な運転」など、交通ルール違反が多く見られ、毎年自転車の交通事故が多数発生しています。自転車に安全に楽しく乗るために、正しい交通ルールと知っておくべき知識を説明していきます。
C-10	守ってますか？自転車のルール とマナー ※DVDのみ	20分 2015年7月	一般	自転車利用者に対するルールの周知と交通安全教育の視点から自転車利用者の指導取締対象となる危険行為について解説しています。また、平成27年6月に施行された道路交通法の改正内容についても解説されています。
C-9	従業員の交通事故と企業リスク ※DVDのみ	22分 2015年3月	一般	交通事故を起こした従業員本人が負わなくてはならない「社会的・道義的責任と法的責任」について解説。更に事故によっては、企業にも責任が及び場合があり、そうした場合に問われる「社会的・道義的責任と法的責任」や「企業の損失」についても、分かり易く解説しています。
C-8	償いの十字架 ※DVDのみ	27分 2014年3月	一般	自らが一度は交通事故の被害者の側に立ちながら、その教訓を生かせず、今度は自分自身が交通死亡事故を引き起こしてしまう主人公。事故の波紋は大きく、やがて双方の家庭は崩壊していく。この映画では、交通ルールを守り、安全運転を心掛けなければ、誰もが加害者、被害者のどちらにもなり得る事を警告する作品です。
C-7	災害時、ドライバーはどう生き 残るか ※DVDのみ	28分 2013年3月	一般	地震、津波、火災などの大災害が起きたとき、ドライバーはどんな事態に遭遇するのか。東日本大震災被災地のドライバーの協力で撮影した貴重な証言に専門家の分析や意見、そして実験などを加え、災害時にドライバーがどう行動すればよいのかわかりやすく描いています。
C-6	安全な自転車のルール 危険へ の備え ※DVDのみ	23分 2012年12月	一般	自転車は、免許が無くても乗れます。必要な強制保険もありません。誰でも何の負担もなく気軽に乗れるのが自転車です。便利と効率の車社会からゆるやかなスローライフ社会への転換点にたっているのです。歩行者と自転車が良い関係である為に、自転車に係わる事故を防ぐための知識とともに事故が起きないようにするにはどうしたらいいかを考えていきます。
C-5	自転車は車のなかまで ※DVDのみ	24分 2012年3月	一般	手軽で便利な自転車。しかし、近年、ルール違反による交通事故や歩行者とのトラブル等の問題も増加しています。この作品では、損害賠償に関するミニドラマや自転車事故の再現映像、統計グラフなどを活用しながら、有識者のコメントを交えて、自転車の基本ルールや乗る前に気をつけること等について紹介しています。
C-4	新しい自転車の交通ルール ※DVDのみ	15分 2010年3月	一般	自転車の通行等に関する法規が改正されたことで、自転車安全利用5則を中心に自転車に関する様々な規定や違反行為を指摘し交通マナーの向上を目指した作品になっています。
C-3	あなたの運転間違っていますか ※DVDのみ	21分 2010年3月	一般	最近、自転車利用者のマナー低下と共に、自転車が歩行者に対して加害者となる事故が増えています。自転車は「軽車両」として道路交通法を守らなければならないことを訴え自転車の正しい乗り方、事故事例をもとにどうすれば事故は防げるのかを分かりやすく解説します。
C-2	自転車も車両です～交通安全へ の意識改革～ ※DVD有	21分 2009年3月	一般	自転車に乗る人をはじめ、ドライバーや歩行者に「自転車も車両」という意識と責任感を持たせ、安全ルールの基本である自転車安全利用5則を理解させ、法規とマナーを守ることの大切さを描いています。
C-1	ママチャリ・ブギ～家族みんな の交通安全～ ※DVDのみ	28分 2006年9月	一般	近年、自転車による、歩行者の交通事故や、幼児同乗中の自転車事故が、多発しています。この作品は、テレビでおなじみの、人気外役が出演して、幼児を自転車に乗せる機会の多い保護者に、安全で楽しく学んでもらうことを目的としています。